

四半期報告書

(第11期第3四半期)

自 2019年10月1日

至 2019年12月31日

明治ホールディングス株式会社

(E21902)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	5

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7

2 役員の状況

	7
--	---

第4 経理の状況

	8
--	---

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12

2 その他

	18
--	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

	19
--	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月7日
【四半期会計期間】	第11期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	明治ホールディングス株式会社
【英訳名】	Meiji Holdings Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長 川村 和夫
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目4番16号
【電話番号】	03(3273)4001(代表)
【事務連絡者氏名】	経理財務部経理財務G長 島田 勇人
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番16号
【電話番号】	03(3273)4001(代表)
【事務連絡者氏名】	経理財務部経理財務G長 島田 勇人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第3四半期連結 累計期間	第11期 第3四半期連結 累計期間	第10期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 12月31日	自2019年 4月1日 至2019年 12月31日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (百万円)	950,698	951,183	1,254,380
経常利益 (百万円)	80,903	81,802	99,709
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	61,893	52,461	61,868
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	63,257	53,088	61,512
純資産 (百万円)	562,762	591,878	560,630
総資産 (百万円)	1,025,064	1,034,761	1,004,143
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	426.80	361.67	426.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.6	53.8	52.5

回次	第10期 第3四半期連結 会計期間	第11期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年 10月1日 至2018年 12月31日	自2019年 10月1日 至2019年 12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	162.57	141.99

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において判断したものであります。

1. 経営成績の分析

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第3四半期 連結累計期間	951,183	80,348	81,802	52,461	361.67
前第3四半期 連結累計期間	950,698	79,604	80,903	61,893	426.80
前年同期比 (%)	100.1	100.9	101.1	84.8	-

当社グループは「2020中期経営計画」の2年目を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とサステナビリティの推進」に向けた取り組みを進めています。

2020年3月期は、食品セグメントでは個人消費動向が不安視され、医薬品セグメントでは2019年10月に続き2020年4月にも薬価改定の実施が予定されるなど厳しい環境下ではありますが、両セグメントともにコア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下することで着実に計画を推進しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,511億83百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は803億48百万円（同0.9%増）、経常利益は818億2百万円（同1.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は524億61百万円（同15.2%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計		
	食品			医薬品					
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減
売上高	803,176	796,672	△6,504	148,299	155,448	7,149	951,476	952,121	644
セグメント 利益	64,922	65,148	225	15,157	15,605	447	80,080	80,754	673

(注) 売上高、セグメント利益は、セグメント間の取引を消去する前の金額によっております。

セグメントの業績の詳細は、次のとおりです。

(1) 食品

当セグメントには発酵デイリー（ヨーグルト、牛乳類、飲料等）、加工食品（チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等）、菓子（チョコレート、グミ、ガム等）、栄養（スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等）、海外、飼料、畜産品、砂糖及び糖化穀粉等の製造・販売、運送等が含まれております。

売上高は、前第3四半期連結累計期間並みとなりました。加工食品事業、菓子事業、栄養事業、海外事業は前第3四半期連結累計期間を上回りましたが、発酵デイリー事業はプロバイオティクスやヨーグルトの減収により前第3四半期連結累計期間を下回りました。

セグメント利益は、前第3四半期連結累計期間並みとなりました。栄養事業の主力品の増収や価格改定等により、プロバイオティクスやヨーグルトの減収影響をカバーしました。

事業別の概況は次のとおりです。

■発酵デイリー事業

売上高は、「明治おいしい牛乳」が堅調に推移したことに加えて、「ザバミルクプロテイン」がラインアップの強化により大幅に伸長しましたが、プロバイオティクスやヨーグルトが減収となった結果、前第3四半期連結累計期間を下回りました。

営業利益は、減収の影響や原材料調達コストの増加により前第3四半期連結累計期間を下回りました。

■加工食品事業

売上高は、アイスクリームが夏場の天候不順の影響を受けて減収となりましたが、10月に燻製タイプの新商品を発売した「明治北海道十勝カマンベールチーズ」が大幅増収となったことなどが寄与し、前第3四半期連結累計期間を上回りました。

営業利益は、主要商品の増収に加え、2019年3月に実施したアイスクリームの価格改定の影響などにより、前第3四半期連結累計期間を上回りました。

■菓子事業

売上高は、「チョコレート効果」や「きのこの山・たけのこの里」が好調に推移したことにより、前第3四半期連結累計期間を上回りました。

営業利益は、物流費や販売促進費などが増加した影響により、前第3四半期連結累計期間を下回りました。

■栄養事業

売上高は、乳幼児ミルクがインバウンド需要の影響を受けて好調に推移したほか、スポーツプロテイン「ザバス」や流動食「明治メイバランス」の増収などにより前第3四半期連結累計期間を上回りました。

営業利益は、主要商品の増収により前第3四半期連結累計期間を大幅に上回りました。

■海外事業

売上高は、中国子会社が伸長したことにより、前第3四半期連結累計期間を上回りました。

営業利益は、中国子会社の増収により、前第3四半期連結累計期間を大幅に上回りました。

■その他国内子会社

売上高は、畜産品子会社や物流子会社等の減収により前第3四半期連結累計期間を下回りました。

営業利益は、畜産品子会社や物流子会社等の減収の影響により前第3四半期連結累計期間を大幅に下回りました。

(2) 医薬品

当セグメントには、医療用医薬品及び農薬・動物薬等の製造・販売が含まれております。

売上高は、2019年10月に実施された薬価改定の影響がありましたが、前年度第2四半期から連結したKMバイオロジクスの実績が計上されたことに加え、インフルエンザワクチンや海外子会社の増収により前第3四半期連結累計期間を上回りました。

セグメント利益は、インフルエンザワクチンや海外子会社の増収に加えて、インド子会社ののれん償却費の減少が寄与し、前第3四半期連結累計期間を上回りました。

事業別の概況は次のとおりです。

■国内事業

売上高は、抗うつ薬「リフレックス」が特許切れの影響で大幅な減収となったものの、インフルエンザワクチンや抗菌薬「タゾピペ静注用明治」が大幅に伸長したことから、前第3四半期連結累計期間を大幅に上回りました。

営業利益は、抗うつ薬「リフレックス」の大幅な減収や2019年10月に実施された薬価改定の影響などにより、前第3四半期連結累計期間を下回りました。

■海外事業

売上高は、インドやスペインの子会社が伸長したことにより前第3四半期連結累計期間を上回りました。

営業利益は、海外子会社の増収に加えて、インド子会社ののれん償却費の減少により前第3四半期連結累計期間を大幅に上回りました。

■KMバイオロジクス

売上高は、前年度第2四半期から連結子会社となったため、当期の第1四半期実績が純増となり、前第3四半期連結累計期間を大幅に上回りました。

営業利益は、当期から新たに取込んだ第1四半期において営業損失を計上した影響などにより、前第3四半期連結累計期間を大幅に下回りました。

2. 財政状態の分析

〔資産〕

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は 1兆347億61百万円となり、前連結会計年度末に比べて 306億18百万円増加しました。これは建設仮勘定が 87億2百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が 176億79百万円、建物及び構築物（純額）が 169億18百万円、現金及び預金が 45億74百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は 4,428億83百万円となり、前連結会計年度末に比べて 6億29百万円減少しました。これはコマーシャル・ペーパーが 130億円増加した一方、未払法人税等が 134億68百万円減少したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は 5,918億78百万円となり、前連結会計年度末に比べて 312億48百万円増加しました。これは利益剰余金が 309億28百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は 53.8%（前連結会計年度末は 52.5%）となりました。

3. 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

4. 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

5. 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は 227億94百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

6. 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員の状況に重要な変動はありません。

7. 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの生産、受注及び販売の実績に著しい変動はありません。

8. 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新設、休止、大規模改修、除却、売却等による著しい変動及び変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	560,000,000
計	560,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	152,683,400	152,683,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	152,683,400	152,683,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	152,683,400	—	30,000	—	7,500

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 7,611,200	—	—
	（相互保有株式） 普通株式 30,400	—	
完全議決権株式（その他）	普通株式 144,295,500	1,442,955	—
単元未満株式	普通株式 746,300	—	—
発行済株式総数	152,683,400	—	—
総株主の議決権	—	1,442,955	—

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式54株及び証券保管振替機構名義の株式38株が含まれております。

2 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株（議決権数24個）含まれております。

②【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） 明治ホールディングス(株)	東京都中央区京橋 2-4-16	7,611,200	—	7,611,200	4.98
（相互保有株式） 都輸送(株)	神奈川県小田原市 栄町1-6-12	5,200	25,200	30,400	0.02
計	—	7,616,400	25,200	7,641,600	5.00

(注) 都輸送(株)が他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
加入持株会における共有持分のため	明治ホールディングス取引先持株会	東京都中央区京橋2-4-16

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表についてEY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,356	29,931
受取手形及び売掛金	※4 202,193	※4 219,872
商品及び製品	105,757	105,709
仕掛品	4,578	3,946
原材料及び貯蔵品	55,589	55,105
その他	28,149	28,897
貸倒引当金	△176	△1,305
流動資産合計	421,447	442,158
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	334,729	353,527
減価償却累計額	△169,035	△170,915
建物及び構築物（純額）	165,693	182,611
機械装置及び運搬具	533,595	535,931
減価償却累計額	△381,789	△381,601
機械装置及び運搬具（純額）	151,806	154,330
工具、器具及び備品	54,826	56,827
減価償却累計額	△42,237	△42,677
工具、器具及び備品（純額）	12,589	14,149
土地	70,765	69,721
リース資産	2,891	2,982
減価償却累計額	△2,243	△2,164
リース資産（純額）	648	818
建設仮勘定	31,988	23,285
有形固定資産合計	433,491	444,916
無形固定資産		
のれん	73	717
その他	13,480	13,105
無形固定資産合計	13,553	13,823
投資その他の資産		
投資有価証券	93,504	92,074
退職給付に係る資産	20,274	21,308
繰延税金資産	14,409	13,326
その他	7,557	7,226
貸倒引当金	△94	△72
投資その他の資産合計	135,651	133,863
固定資産合計	582,696	592,603
資産合計	1,004,143	1,034,761

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 125,479	※4 123,324
短期借入金	33,597	43,671
コマーシャル・ペーパー	-	13,000
未払費用	46,286	44,198
未払法人税等	21,023	7,554
賞与引当金	11,895	5,969
返品調整引当金	757	392
売上割戻引当金	2,443	2,798
その他	50,021	55,007
流動負債合計	291,504	295,915
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	62,788	57,002
繰延税金負債	10,650	10,281
退職給付に係る負債	53,830	54,579
役員退職慰労引当金	106	121
その他	4,632	4,981
固定負債合計	152,008	146,967
負債合計	443,512	442,883
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	100,061	100,208
利益剰余金	407,943	438,871
自己株式	△30,422	△30,280
株主資本合計	507,582	538,800
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,261	32,711
繰延ヘッジ損益	3	△1
為替換算調整勘定	△1,751	△4,264
退職給付に係る調整累計額	△11,785	△10,178
その他の包括利益累計額合計	19,728	18,266
非支配株主持分	33,320	34,811
純資産合計	560,630	591,878
負債純資産合計	1,004,143	1,034,761

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	950,698	951,183
売上原価	605,196	602,246
売上総利益	345,501	348,937
販売費及び一般管理費	265,896	268,588
営業利益	79,604	80,348
営業外収益		
受取利息	91	171
受取配当金	1,219	1,279
持分法による投資利益	35	-
受取保険金	-	1,239
その他	1,662	1,462
営業外収益合計	3,008	4,153
営業外費用		
支払利息	547	555
持分法による投資損失	-	274
為替差損	508	477
その他	653	1,392
営業外費用合計	1,709	2,700
経常利益	80,903	81,802
特別利益		
固定資産売却益	6,514	1,065
負ののれん発生益	6,584	-
投資有価証券売却益	99	598
その他	226	-
特別利益合計	13,425	1,663
特別損失		
固定資産廃棄損	1,494	2,044
減損損失	1,007	1,991
災害による損失	1,328	-
その他	1,938	1,571
特別損失合計	5,769	5,607
税金等調整前四半期純利益	88,558	77,858
法人税等	24,411	23,256
四半期純利益	64,147	54,601
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,253	2,140
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,893	52,461

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	64,147	54,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,657	△550
繰延ヘッジ損益	45	△4
為替換算調整勘定	△749	△2,165
退職給付に係る調整額	1,654	1,581
持分法適用会社に対する持分相当額	△181	△374
その他の包括利益合計	△889	△1,513
四半期包括利益	63,257	53,088
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,111	51,000
非支配株主に係る四半期包括利益	2,146	2,088

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、明治乳業(天津)有限公司を新規設立したため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、明治ケンコーハム株式会社の全株式を売却したため、連結の範囲から除外しております。また、Romeck Pharma合同会社の持分を取得したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、一部の在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」を適用しております。当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
PT MEIJI FOOD INDONESIA	55百万円	-百万円
仙台飼料(株)	76	67
まきば飼料(株)	-	1,197
Meiji India Pvt. Ltd	-	7
従業員	68	48
計	200	1,321

2 社債の債務履行引受契約にかかる偶発債務

次の社債については、銀行との間に締結した社債の信託型デット・アサンプション契約（債務履行引受契約）に基づき債務を譲渡しております。従って、同社債に係る譲渡債務と同契約による支払金額とを相殺消去しておりますが、社債権者に対する当社の社債償還義務は社債償還時まで存続します。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
当社第4回無担保社債	20,000百万円	-百万円
当社第6回無担保社債	15,000	15,000
計	35,000	15,000

3 受取手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形割引高	23百万円	-百万円
受取手形裏書譲渡高	34	70

※4 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当第3四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	277百万円	267百万円
支払手形	3,138	3,044

5 コミットメントライン契約

当社においては、機動的な資金調達及び資金効率の改善を目的として、取引金融機関6行との間で、コミットメントライン契約を締結しております。

この契約に基づく当第3四半期連結会計期間末における借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
コミットメントラインの総額	30,000百万円	20,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	30,000	20,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	31,887百万円	34,308百万円
のれんの償却額	1,229	11

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月11日 取締役会	普通株式	10,512	72.50	2018年3月31日	2018年6月6日	利益剰余金
2018年11月7日 取締役会	普通株式	9,427	65.00	2018年9月30日	2018年12月6日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月13日 取締役会	普通株式	10,877	75.00	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金
2019年11月8日 取締役会	普通株式	10,155	70.00	2019年9月30日	2019年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	802,763	147,934	950,698	-	950,698
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	413	365	778	△778	-
計	803,176	148,299	951,476	△778	950,698
セグメント利益	64,922	15,157	80,080	△476	79,604

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△476百万円には、セグメント間取引消去11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△488百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、KMバイオロジクス株式会社の株式の一部を取得し、連結範囲に含まれた事により、「医薬品」のセグメントにおいて負ののれん発生益を6,584百万円計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	796,222	154,961	951,183	-	951,183
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	450	487	937	△937	-
計	796,672	155,448	952,121	△937	951,183
セグメント利益	65,148	15,605	80,754	△405	80,348

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△405百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
配分していない全社費用△411百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	426円80銭	361円67銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	61,893	52,461
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	61,893	52,461
普通株式の期中平均株式数(千株)	145,020	145,054

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月8日開催の取締役会において、2019年9月30日現在の株式数に応じて次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額……………10,155百万円
- (ロ) 1株当たりの金額……………70円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2019年12月6日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

明治ホールディングス株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永澤 宏一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江村 羊奈子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 衣川 清隆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている明治ホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、明治ホールディングス株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

